

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動	・ESSの実施	・八王子セミナーハウスでの3年目の実施となったが、昨年度からの引き継ぎが円滑に行われ、滞りなく実施できた。参加生徒の人数(30名程度)は、ほぼ例年と同じで、英語の学習意欲が高い生徒が参加した。外国人講師の選定を民間企業に依頼し、滞りなく行うことができ、意欲喚起を含めて充実した内容であった。	A	・企画運営に関するノウハウの蓄積が十分に行われているので、次年度以降も継続実施していく。次年度は英語科教員の異動が見込まれ、企画運営に関する引き継ぎを確実にしておくことが必要である。また、英語科の補助教員を活用し、宿泊ではなく日帰りの参加を検討する。	・生徒たちにとって学校の授業とは違った英語に触れられる機会だと思います。今後も継続していただきたいと思います。 ・本校の特色ある教育活動の一つであるESSの企画については、今後は全校生徒が参加出来るような方向を模索すべきであると考えます。
	・言語活動の充実	・「言葉の教育」として、学年や国語科を中心に全校体制で朝の読書時間に各学級毎に書評を行い、表現力の向上に努めた。また、学校支援本部の協力の下、朝の読み聞かせを実施した。		・書評に関しては、今年度の検証を踏まえ、実施するかどうかも含め検討する。 ・読み聞かせに関しては、各学年・学級でのローテーションをうまく組み、実施内容に偏りが無いよう工夫していく。	・読み聞かせの実践については、関係者の協力を得てさらに充実させていきたい。 ・書評についても、読書に関する様々な情報のやり取りを盛んにしながら、その充実を図って頂きたい。
	・食育の推進	・食育担当や栄養士を中心に、学習成果を給食メニューに反映させ、生徒自身が健康・食について考える機会を多くもつことができた。		・学年ごとの計画的な実施が機能しているが、さらに充実した内容を検討していく。	・朝読書など学校での取り組みが、家庭での読書習慣につながっていると感じられます。子どもが興味のある本を自由に選択できることが素晴らしいと思います。学校の特色として継続していただきたいです。
	・土曜授業	・外部講師による講演を行い、食習慣について、考えさせることができた。保護者への啓発が課題である。 ・国際社会に生きる社会人、「コスモポリタン」を目指し、コミュニケーションツールとしての英語の役割を身に付ける授業の実施。		・外部講師の変更もあったが、特に課題はなかった。来年度も継続していく。 ・計5回の外部講師を招いた授業を実施したが、地域の外部人材を活用した授業展開ができるよう検討する。	・食育、給食に関してはPTAの給食試食会などを通じ保護者の関心も高くなってきています。 ・外国語の授業は効果的であったので、前年度からの「国際社会に生きる社会人育成」の視点に立って、地域の研究者の支援など得ながらさらに充実させて頂きたい。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESSとALTを活用した土曜授業の国際理解教育を推進する。土曜授業では各クラスにALTを配置し、本校の特色ある教育活動とする。また、ESSでの学習成果が全校生徒に波及するように、国際理解教育の充実を図る。 ・外部人材を活用した読み聞かせは継続し、書評発表については国語科と連携を図りながら内容も含めて検討する。 ・学校保健委員会やPTA主催の給食試食会を充実させ、食育についての情報を家庭に伝え、保護者と連携した基本的生活習慣の確立を目指す。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底 ・基礎・基本の学力の定着 ・個に応じた学力の伸長 ・ICTの活用 ・課題解決できる能力の向上 ・補充学習教室の実施 ・体力の増進 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底を学校全体として取り組み、共通実践を行うことができた。 ・学校評価アンケートの結果、前年比は、生徒の肯定率が－3.9ポイント、保護者は－5.6ポイントであった。 ・区の特定課題調査では、数学が区の平均正答率と比較すると若干低いが、昨年度より改善した。 ・教育調査において、個に応じた指導の肯定率が保護者38.1%、生徒35.6%と低い数値であった。 ・各教科において、ICT機器を活用し、授業改善を推進した。 ・都の学力向上を図るための調査結果では、解決する力が国語+8.3、社会+5.3、数学+10.8、理科+7.3、英語+16.4ポイントである。 ・補充学習教室の運営が軌道に乗っているが、受講者の参加率が低くなっている傾向があり、教員と外部指導員との共通認識をさらに深めていく必要がある。 ・学校支援本部と連携し各種検定（英検・漢検・数検）を実施した。 ・保健体育を中心に、5分間走を継続し、持久力を高めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底を維持するために、全教員による共通理解・共通実践を続けていく。 ・数・英の2教科で少人数指導を実施しているが、個に応じた授業展開を推進し、工夫・改善する必要がある。 ・特に数学においては、ノートやワークを活用し、きめ細やかな指導の徹底と家庭学習の習慣を身に付けさせる必要がある。 ・習熟度少人数指導（数・英）と補助教員を活用し、個に応じた学力の伸長を図る。 ・デジタル教科書の導入に備え、全校体制で、ICTを活用した授業を推進する。 ・研究課題である「学び合い」と少人数指導を継続し、課題解決能力の向上のために、さらに習熟度別学習の指導体制を固めていく。 ・教員と外部指導員との打ち合わせを綿密に行い、共通理解の下、実施していく。 ・各種検定の運営を学校支援本部だけでなく、教員やPTAと連携しながら運営することができた。今後も継続していく。 ・都の体力調査の結果より、持久力の向上が見られ、今後も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に授業に取り組むことができるような授業実践を工夫して頂きたい。授業における盛んな生徒の発言と話し合い活動を望みたい。 ・研究課題である「学び合い」学習の成果を生かしながら、少人数指導や個に応じた指導を展開し教員の努力している点や、その成果については、保護者に具体的に理解してもらう必要がある。 ・ゲーム機やスマートフォンの普及で年々家庭学習の習慣が身に付きにくくなっていると感じます。各家庭の考え方や事情もあることなので難しいとは思いますが、学校側の改善策・対応策に保護者の理解が加われればさらなる成果が期待できるのではないのでしょうか。 ・デジタル教材の使用やICTの活用については先進校の事例に学んで、専門家の支援を受けながら、その課題を解決していくことが必要であると思われる。全校体制での優れた授業実践を期待したい。 ・保護者の多くが習熟度少人数指導を進学塾のクラス分けと同じように考えているのではないのでしょうか。その理解不足が肯定率の低さにつながっていると思われます。 ・教員と外部指導員の共通理解を深め、学校支援本部とも良く連携しながら、補充学習教室の効果的な運営を図ってほしい。 ・体力の向上については、5分間走の継続などを工夫し、持久力の向上に努めてほしい。 ・ランニングは中学校卒業後も身近なスポーツとして楽しむことができます。杉並区では中学校対抗駅伝大会などもあり生徒のモチベーションも高いと思いますので、そういった行事を動機づけにして5分間走を継続していただきたいです。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充学習教室の外部講師と教職員との連携をさらに深め、基礎・基本の定着を図る。数学・英語においては、習熟度別少人数指導を活用し、課題別学習・習熟度別学習に取り組み、個に応じた指導を推進し学力向上を図る。全校体制でICTを活用した授業を推進し、公開授業を実施する。 ・都の体力調査の結果より、持久力の向上が見られることから、保健体育を中心に5分間走を継続する。また、部活動加入率を高めるようにする。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の定着 ・互いに尊重し合う態度の育成 ・個別指導・支援体制の充実 ・防災・安全教育の推進 ・体験的な学習を重視したキャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の意識調査では、「学校の規則を守っているか」の質問に対して肯定率が国や都に比べると5ポイント高くなっている。 ・いじめ防止基本方針を策定し、全教員が他学年の生徒も含めて細かく目配りをし、いじめ等の早期発見と的確な対応をした。 ・行事（体育祭・合唱コンクール・校外行事等）及び部活動への取り組みを通して、人間関係の構築に成果が見られる。 ・教育相談委員会を中心として、教員とSCの連携による個別指導・支援体制の充実を図った。また、職員会議・職員朝会等で学年間の情報伝達を密に行い、指導・支援体制の充実を図ることができた。 ・今年度も引き取り訓練と震災救援所訓練を同時に実施した。また、1学年の全生徒が震災救援所訓練に参加した。 ・第2学年では、地域の事業所の全面的な協力の下、職場体験活動を実施できた。学校評価アンケートではキャリア教育の生徒の肯定率が86.1%になっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から、多くの情報を発信し保護者と連携しながら、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・学校全体での情報共有と指導方針の確認と徹底を図る。特にいじめは人権侵害であり、学校全体でいじめ問題に対する取り組みをさらに深めていく。 ・行事に関する指導体制は、組織的な対応を継続し、互いに尊重し合う態度の育成を図る。 ・個別の教育支援計画を作成し、学校と保護者が共通理解し、指導を継続できるようにする。 ・個別指導・相談体制は、特別支援教育コーディネーターを中心として、養護教諭・教員・SCの連携が密に図られ、成果を挙げている。 ・来年度以降も1学年の生徒全員を震災救援所訓練に参加させ、地域と連携した防災・安全教育の推進を図る。 ・第1学年の職業調べ・校外学習と連携した職場訪問、第2学年の5日間の職場体験学習、第3学年では、上級学校訪問を系統的に実施し、望ましい職業観や勤労観を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区には生徒会サミットという素晴らしい行事があるので、それを軸に生徒が日常的にいじめ問題について考えられる雰囲気があればいいと思います。また合唱コンクールは、いい意味での競争を通じお互いを認めあう場となっていると感じられます。将来的にはPTAも含め生徒、学校と人間関係について意見交換ができるようになればいいと思います。 ・生徒は 体育祭・合唱コンクールなど、集団活動の場面でも、非常に優れた成果を発揮している。この様子から、学校としての基本的な生活習慣についての指導は定着していると思われる。 ・地域の住民として、学校の行き帰りの生徒の様子や学校行事での活動の様子を見てみると、互いに尊重し合う態度が良く育成されていると思われる。 ・教員とSCの連携や、特別支援教育コーディネーターの活動、および外部相談機関の心理職との連携を今後とも深めていってほしい。 ・今後も、地域と連携した防災・安全指導の在り方など、様々な訓練の中で研究し、生徒の防災意識をさらに育成して欲しい。 ・生徒の震災救援所訓練への参加が防災意識の向上が期待できるので継続していただきたいです。スタンドパイプなどの設備があることを知っておくだけでも大きな違いがあると思います。 ・進路指導については、進学指導はもちろんのこと、キャリア教育の充実の視点に立って、地域とも連携しながら、職場訪問や職場体験学習を推進して欲しい。 ・職場体験を単に勤労に触れるだけでなく、ふだん大人が何をしているのかということに興味を持つきっかけにしたいです。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立を目指し、朝の「あいさつ運動」を生徒会が中心となり実施する。小中一貫教育も含め、杉一小・馬橋小とも連携して行うことができるようにする。行事（体育祭・合唱コンクール等）を通して、互いに尊重し合う態度の育成を図る。 ・特別支援校内委員会を中心に、実態の把握や指導の確認を行い、日常の特別支援教育の充実を図る。 ・来年度以降も1学年全員を震災救援所訓練に参加させ、地域と連携した防災・安全教育の推進を図る。 ・一年次では職業調べ・職場訪問、二年次では職場体験・上級学校訪問、三年次では進路学習を充実させ、キャリア教育の推進を図る。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
道徳・総合的な学習の時間・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教育活動と連携させて、道徳教育の推進 自他の生命を大切に する実践的態 度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでは、保護者が66.9%、生徒は81.9%の肯定率である。教育調査では、保護者が58.2%、生徒は43.1%の肯定率であり、低い数値となっている。 「いのちの教育月間」では、いのちの教育読書感想文に多くの生徒が応募し、自他の生命について深く考える機会を与えることができた。今年度、優秀賞をいただいた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事へのボランティア参加を継続して推進し、道徳実践力を育む。 学年便り等に、道徳の授業内容等を掲載し、家庭でも道徳について考える機会を増やす。また、道徳授業地区公開講座の意見交換会の内容を保護者に通知し、情報を共有できるようにする。 「特別の教科 道徳」に向けて道徳教育推進教師を中心に研修を深め、全校体制で道徳教育を推進する。 人権教育プログラムやいじめ防止教育プログラムを活用し、人権教育の計画的な推進を図り、自他の生命を大切にすることの指導を徹底して行う。 国語科と連携し、いのちの教育の作文コンクールに積極的に参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な話としてですが、学校評価アンケートや教育調査に回答する場合、設問によっては保護者が判断材料となる情報や予備知識を十分に持っていないことも考えられます。そのような場合「答えにくい設問」に対しては、さしさわりのないという意味で真ん中より少し上に回答が集まる傾向があると思います。 「特別の教科 道徳」に向けての動向を踏まえながら、全体計画を作成し、家庭への啓発活動に努め、地域住民の願いを大切にしながら、心の教育の推進して頂きたい。 道徳教育の推進にあたっては、前年度の英語での講演会のような 生徒に対する啓発的な体験をさらに工夫していく必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動におけるボランティア活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事へのボランティア活動において、参加人数のみならず、活動内容において顕著な取り組み姿勢の改善が見られた。「ふれあい運動会」「こども盆踊り」の活動に対して青少年表彰の推薦をいただいた。 「税についての作文」杉並関税会「税の標語」に出展し、優秀作品賞等をいただいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を中心に、自治力の充実にさらにもぎしていく。 多くの生徒がボランティア活動に参加することより、社会貢献の精神や地域社会で共に生きる力を育む。 小中一貫教育を推進するためにも、小学校の運動会や盆踊りのボランティアに積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「こども盆踊り」のボランティアは準備段階から相当量の仕事が与えられるため、段取りや協働作業の大切さを学ぶ機会になっていると思われます。 多くの生徒が 和紙キャンドルナイトや小学校での盆踊りへボランティアとして参加している。小中一貫教育を推進する視点を明確にしながら、地域社会で共に生きる力を育てて頂きたい。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年度の「特別の教科道徳」に向けて、道徳教育推進教師を中心に研修を深め、全校体制で道徳教育を推進する。さらに多くの生徒が地域ボランティア活動に参加するという利点を生かし、社会貢献の精神や地域社会で共に生きる道徳実践力を育む。 来年度からの2泊3日のフレンドシップスクール等の宿泊体験学習や職場体験学習、社会体験活動を通して、道徳性を高める。 生徒会活動を中心に地域行事への参加やボランティア活動の充実に図り、生徒の自主性や協調性、実践力を養い、自治力を高める。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、学校支援本部、PTAとの連携を密にし、地域運営学校としての学校運営を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果、地域運営学校としての保護者肯定率は67.7%、学校支援本部との連携に関しては75.5%と、概ね肯定的な評価である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会、学校支援本部、PTAとの連携を密にしていく。 各種検定の運営を学校支援本部だけでなく、教員やPTAと連携しながら運営していく。 定期的に学校支援本部との打ち合わせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 杉森中には全員参加型のPTAを目指すためのお手伝い登録制度があり、年度初めに行事のスケジュールがわかっているれば、それに合わせて人員を割り振ることができます。さらなる制度の活用で人的な連携強化の可能性があると思われます。 学校運営協議会と学校支援本部およびPTAとの連携を、さらに深めていく必要があると思われる。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校を地域に広く公開し、情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおいて、学校の情報提供に対する肯定率は85.5%と高い数値である。教育方針や教育の重点を分かりやすく伝えているかという項目では、72.1%と若干低い数値となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの内容充実および更新回数の増加により、学校評価アンケートで高い肯定率を得られたので、今後もより分かりやすい内容と回数の拡充を図っていく。 定期的な学校便り・学年便りの発行を通して、情報発信を行う。 今後も保護者会等で教育方針や教育の重点を示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> HPで学校の情報を見られることはありがたいですが、頻繁な更新が先生方の負担にならないかが心配です。 学校HPの内容充実および更新回数の増加により、一定の成果が得られたと思われる。今後とも保護者・地域住民の要望を聴きながら、きめ細かな情報発信をお願いしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、年間3回の小中合同研修会を行い、各校の実態把握と小中の教育カリキュラムの一貫化を図った。 学校評価アンケートでは、保護者肯定率が75.5%と、ある程度の評価を得られた。 教育調査では53.4%（前年比5.3ポイント増）であり、低い数値であるが、ポイントは増加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小学生が中学校で体験する機会をさらに画策する。 学校便りやHPを通して、地域や保護者に周知する。 継続して杉馬通信を活用し、小中一貫教育について、保護者や地域に周知していく。 いじめサミットの内容を小学生に説明できる機会を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公立の小中一貫教育がさらに発展し、地域の保護者に浸透していくことを期待します。 小中一貫教育の推進についてはよく努力している。今後、低学力生徒への対応など具体的な課題を踏まえながら、各教科での小中連携の指導計画を、作製して行く必要がある。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> HP（更新回数の増加）や学校便りの工夫・改善を行い、教育活動の情報発信をより一層充実していく。 年3回、小中各校で授業参観・研修を実施し、小中学校の系統性・連続性を生かした教育を推進する。また、中学生の小学校行事へのボランティア参加を推進するなど小中一貫教育の充実を図る。継続して杉馬通信を活用し、小中一貫教育について、保護者や地域に周知していく。 学校運営協議会、学校支援本部とPTAとの連携を深め、共通理解を図りながら地域運営学校としての学校運営を推進する。 すぎなみ未来サミットに向けて、いじめ問題に対する取組を小中連携を図りながら推進する。 					